

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年3月8日(火)

《もし最後の一言ならば、一み言葉の様な言葉を使いましょうー》

ある人が、体調が悪くて病院へ行きました。検査の結果、病院から「あなたは舌に癌ができています。舌癌ぜつがんです。出来るだけ早く手術を受けなければなりません。」と言われます。そして手術の日を決め、その当日がやって来ました。

手術の前には麻酔をかけますが、手術室に入ってから麻酔をかける病院もあるし、病室で麻酔をかけてから手術室へ行く病院もあります。彼の場合は、麻酔をしないまま手術室へ入りました。そこで麻酔をする医師から、「あなたは、この手術が終わったら舌がなくなるので話せなくなります。最後に何か話したいことがあれば待ちますので、話してください。」と言われます。その人は、舌癌と言われてから、ずいぶん悩んだことでしょう。手術を受けると決めてからも、当日までの間にいろいろな思いが浮かんだと思います。その間に準備をしていたのか、それともその日突然だったのか分かりませんが、その人が口にしたのは、「愛である神様をたたえます。」という言葉でした。それを聞いたカトリック信者の医師が感動して、雑誌に投稿した文章を読みました。その手術は成功しますが、結局その人は舌を失いました。その人が最後に話した「神様をたたえます。」という言葉に、その医師も一緒にいた人々もみんな衝撃を受けたようです。それを読んで、もし最後の一言が許されたら、私は何を言うだろうか、と考えてみました。皆様はどう思いますか。

私たちは、目が見えます。もし事故によって視力を失っても、それまでに目で見てきた全てのことは脳に残っています。ですから、一度でも見たことがある人は、目が見えなくなっても全て分かります。脳に描くことができます。また、聴力も同じです。事故で全く聞こえなくなっても、自分が耳にしたことのあるものは全て覚えています。匂いもそうです。一度嗅いだ匂いは、頭に残ります。たとえば、汚いものに触った後、何回も石鹸で洗っても臭いがするような気がするのは、脳がそれを覚えているからです。既にその臭いのもととはなくなっているのに、脳が覚えているから、何回洗っても「臭いくさ」とを感じるのです。しかし、舌というものは、一度使わなくなれば何もできません。

皆様なら、最後の一言にどんな言葉が出るのでしょうか。今の話の人は、神様を呪ってもおかしくない立場です。まだ若いのに舌を失うこと自体が呪いと思うかもしれないし、その反動で、全てのことを呪うかもしれません。それなのに、この人が見せた「愛である神様をたたえます。賛美します。」という告白は、どこから出たのでしょうか。もし私がその立場ならば、そのような言葉が出るのでしょうか。出るかもしれませんが、それは内容を意識した言葉ではないでしょう。皆様にもよく考えていただきたいです。

今日の福音(マルコ 12・13 - 17)で、ファリサイ派やヘロデ派の人々がイエス様の言葉じりをつかもうとしてきれいな言葉を使っていますね。しかし、そのきれいな言葉の陰に隠れている刃は、するど

いです。私たちは、たくさんの愚痴を言いながらこの世の中を生きています。私たちがあまり考えずに口にした言葉が、どこかに根をおろして立派な実を結んでいるかもしれないし、その根がその人を殺しているかもしれません。信者である私たちが口にするのは、9割くらいは悪くない話でしょう。しかし、残りの1割にもならない悪い言葉によって、自分を破壊してしまう場合もあります。自分の舌について、言葉について、深刻に考えるべきではないかと思います。

ファリサイ派の人々、そしてイエス様に反対していた人々の言葉には、いつも棘(とげ)がありました。棘の目的は刺すことです。刺さなければ棘の意味はありません。自分を守るためか、相手に害を与えるためか分かりませんが、とにかく棘の目的は刺すことです。もし私たちも舌に棘があるような言葉を口にしたことがあれば、悔い改めましょう。イエス様のおっしゃった「私の御父が聖なる方であるように、あなたがたも聖なるものになりなさい。」という言葉は、やはりこの口から始まるのではないのでしょうか。優しい言葉を聞いて育った子どもは優しい人間になります。優しくない言葉ばかり聞いて育てば、悪くなり、悪い反応を見せながら生きるようになります。私たちは、み言葉を育てています。抱きしめています。そのみ言葉のような言葉をできるだけ使おうとしましょう。人を生かせる話をできるだけしようと頑張りましょう。

ありがとうございました。